

平成 年 月 日
 曜日 宿 時開式

道場
戒師 住職

佛前結婚式次第

新郎
新婦

南山沙門修詮編

先 両家参列者着席(塗香作法)

次 戒師入堂(別座)着座

次 **新郎新婦入堂(婚儀壇)着座**

次 戒師本尊壇へ登壇

次 塗香・護身法

次 洒水・三礼

一切恭敬

自歸依佛 當願衆生

自歸依法 當願衆生

自歸依僧 當願衆生

如来妙色身 世間無與等

如来色無盡 一切法常住

次 表白

敬つて 三世常住 淨妙法身 摩訶毘盧

二丁

遮那如来 一代教主釈迦善逝 十方三世
一切諸佛 八方四千権実聖教 声聞縁覚
菩薩聖衆 乃至梵天帝釈四天王天龍八部
等 殊には密教伝来諸大祖師 総じては
盡空法界一切三宝の境界に白して言さく
夫れ夫婦和合は天地の大道にして四恩の
報謝は仏教の根本なり ここに新婚者汝
等佛子 内因外縁純熟して方にこの嘉奠
に遇う 仰ぎ願くは諸佛菩薩 悉知証明
し 諸天善神哀愍加護して 新婚者の所
願を成ぜしめたまえ 乃至法界平等利益
敬つて白す

二丁

次 婚儀壇へ移動登壇

次 塗香(新郎新婦へ授ける)

次 洒水加持(灌頂まで蓋を覆わず)

次 念珠の授与

是は之れ金剛胎藏两部曼荼羅の三摩耶形なり 二の大なる玉は天地陰陽の標示なり 中間の小なる球は真心の糸をもって貫く円満の形なり 善い哉善い哉 夫婦和合の相身を修め 家を整えるの道すべて此の珠に収まる新郎新婦共に能く之を思い常に護持することによって清らかなる新家庭を造るべし

次 授 戒

懺悔文さんげもん(戒師あきら)

新郎新婦諦あきらかに聴く可し 仏徒たる者は必ず須く懺悔を以て第一とす 懺悔するが故に過去の迷妄を除き 身器清浄となる者也 依って今懺悔の文を授く可し

(復唱)

我昔所造 諸悪業 皆由無始 貪瞋痴
 従身口意 之所生 一切我今 皆懺悔

(戒師)

已に身口意の三業を懺悔して大清浄なる

ことを得 仏道に入るの門は開かれたり

次 三 帰(戒師)

次に三宝に帰依し奉る可し 三宝に三種の功德あり 所謂一体三宝住持三宝これ也 一たび帰依する時 諸々の一切功德は悉皆円満す人間に生れること難し 今已に生れる 佛法に遇うこと難し今已に遇う 今生に修せずんば 何れの生に於て真際を悟らん耶 共に至心に三宝に帰依し奉る可し

(復唱)

弟子某甲 尽未来際

帰依佛 帰依法 帰依僧

次 三 竟(復唱)

弟子某甲 尽未来際

帰依佛竟 帰依法竟 帰依僧竟

次 十善戒(戒師)

已に三宝に帰依するが故に仏と同行となることを得べし 既に仏の同行となれば人倫の大本たる十善の大法を持たんことを要す

(復唱)

弟子某甲 尽未来際

不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語

不綺語 不惡口 不兩舌 不慳貪

不瞋恚 不邪見

(戒師)

此の十善は実に人倫の大法にして家庭平和の源なり 之を守れば夫婦相和し 隣保相扶くる事を得て 世の師表たることを得べし 此の大法は 三世諸仏の通戒にして 釈迦牟尼如来より嫡々ちやくくぐと相承し 愚身に及べり 今即ち新郎新婦に授く 能く保つ可し

次 發菩提心真言(復唱)

オンボウヂシツタボダハダヤミ

次 三昧耶戒真言(復唱)

オン サンマヤ サトバン

次 光明真言(復唱)

オンアボキヤ ベイロシヤノウマカボダ
ラマニ ハンドマジンバラ ハラバリタ
ヤウン

次 大師宝号(復唱)南無大師遍照金剛 三遍

次 洒水灌頂(納めて蓋を覆う)

抑も 此の洒水灌頂の法の源は印度の於ける王位継承の儀式なり 依って仏徒継承の標識とす 既に念珠を付け洒水を受けしが故に仏陀の恩寵に預かることを得べし 冀くば新郎新婦 相扶け相敬愛し 相感謝して 新生活に入らんことを

次 ご本尊真言お授け

次
鑒かん誠かい

受けがたき人身今已に受く 遭いがたき
 佛法今已に遭う 得難き良縁今已に得た
 り 今兩人 相扶け 相共に三宝に帰依
 し 以て終生の光となし 四恩の徳を報
 じ 人倫の道を完うし 先祖の名を恥し
 めず 社会の福祉に貢献し 景仰を得ず
 んばある可からず

次
誓 約(戒師)

爰に新郎新婦は 婚儀を高野山東京別院
 道場に行うに當たり 兩人共に恭しく三
 世常住の諸佛諸菩薩 天地神明に誓いを
 たてまつる可し

次
新 郎 □□□□ 殿に告ぐ

大師の嚴誠慈訓を守り 今日心を以て
 終生の心と為し 人道に背くこと無く
 妻を護り敬愛を忘れず相和して以て四恩
 に報い 十善の教えに順い生涯苦樂を偕

にすることを誓いたてまつる可し 能く
誓いますか

(新郎) 「誓います」

次

新婦 □□□□ 殿に告ぐ

大師の嚴誠慈訓を守り 今日心を以て
終生の心と為し 人道に則り婦徳を旨と
し 夫を助け敬愛を捧げ相和して以て四
恩に報い十善の教えに順い生涯苦樂を偕
にすることを誓いたてまつる可し 能く
誓いますかの

(新婦) 「誓います」

次

誓詞(新郎新婦朗読)

宿世の因縁円熟し今正に□□家・□□家
両家先祖累代の靈位証明のもとに、ここ
□□□□道場本尊宝前において、われら両
名、夫婦結縁の聖盃を交わしおわりまし
た。願わくは本日より以後、相携えて苦
樂をともにし、仏作仏業を積んで、わが

喜びを人の喜びに至らしめ、人の苦しみをわが苦しみとして、以てすべての恩に報謝いたします。右、謹んで本尊、宗祖大師、及び両部の諸尊に対し奉り至心に誓願いたします。

平成 年 月 日

新郎

新婦

次 金剛誓水

抑も此の金剛誓水は凡の寅の一点二草木も寝り川の流れも止まり、井戸には五色の花浮かぶ故に井花水と云う。然れば則ち寅の刻の水は、寂静を表す此の水を汲んで飲ましむるの所以のものには他なし。四海波静かにして平和なる家庭を望まんとする欲求に外ならず、冀くば新郎新婦よく此の意を体して遺越せざらんことを

次 夫婦固盃(三三九度)

次 親族固盃(新郎新婦は別座へ)

次 導師婚儀壇より本尊壇へ移動

次 祈 願

今日ここに三世諸仏諸菩薩天地神明の照
艦を仰ぎ 結婚の式典を嚴修し 新郎新
婦互に仏天に誓い婚儀円成す 惟るに一
樹の陰に宿り 一河の流れを汲む如き猶
且偶然に非ず況や二而不二異体同心の理
趣を顕現し 永く将来を期すをや 是れ
宿縁の熟する所 諸仏の導きたまう所な
り 今より以降 諸々の悪を息め衆の善
に修し 四恩に報ぜんことを念ず可し
伏して願わくは新郎の才徳益々高く 新
婦の貞淑愈々美わしく夫婦敬愛し寿命長
遠にして子孫繁栄せんことを 重て乞う

□□家・□□家 両家繁栄 交誼和楽

息災延命子孫長久 仏法興隆 諸人快樂
乃至法界平等利益 丁

次 神 分(参列者は御法樂)

令法久住利益人天の為に

釈迦牟尼宝号

丁

天衆地類倍增威光の為に

般若心經

丁

大般若經名

丁

金輪聖皇天長地久の奉為に

薬師佛名

丁

護持夫婦息災延命の為に

準提佛母宝号

丁

大聖不動明王

丁

院内安全諸人快樂の為に

四大天王名

丁

天下法界平等利益の為に

釈迦牟尼宝号

丁

次 廻 向

所衆功德
廻向三寶願海
廻向三界天人
廻向一切神等
廻向聖朝安穩
廻向伽藍安穩
廻向護持夫婦
廻施法界
廻向大菩提

丁

次 普供養

次 下禮盤(導師挨拶)

次 兩家親族紹介

次 記念撮影

以上